

社会とカシオ

Responsibilities to the Society



カシオ独自のノウハウや経営資源などを活かし、良き企業市民として、広く社会に対する責任を果たしていきます。

社会貢献活動の考え方

カシオは、「次世代教育」「学術・研究」「環境保全」「地域社会活動」「文化・芸術」の5分野への活動を通じて、健全で心豊かな社会づくりを目指しています。

活動を通じて、社会とのコミュニケーションを図り、良き企業市民としてカシオに何ができるかを見極めながら、積極的に社会貢献活動を行っています。カシオ独自のノウハウや経営資源、並びに従業員個人が保有するさまざまな知識や経験を有効に活かして、カシオらしい活動を展開していきます。

今後は、東日本大震災被災者への支援を継続して行っていくとともに、国際的課題の解決に向けた取り組みについても計画・推進していきます。



次世代教育

出前授業、受け入れ授業の実施

カシオは、本業での活動として、教育活動でご活用いただく電卓、電子辞書等の商品を広く社会に提供してきました。2007年からは、「より広く、より深く、教育活動への貢献」という思いで、2007年より、主に小学生を対象としたオリジナルの教育プログラムを開発し、出前授業および八王子技術センターでの受け入れ授業を実施しています。

出前授業のプログラムは大きく分けて、「三つの学び（絆・創造・心の成長）」、「命との触れ合い」、そして、「今、世界で起きていること」の3部構成となっています。まずは「絆・創造・心の成長」。子供たちとの対話を通じて、命の大切さに気付いてもらうプログラムです。次に行うのが命のふれあい。器材を用いて心音を聞いたりすることで命と触れ合い、命を感性で感じてもらいます。最後が「今、世界で起きていること」。これは、私たちの命を育てている地球環境について、世界の子供たちの間で起きている、さまざまな問題について思いを共有し、対話をする場を設定し、「命とは、平和とは、あるいは貧困とは、環境とは」などについて、気づきと行動を醸成する場としています。これらの活動は、日を追うごとに国へと広がりを見せ、2011年度は、延べ57校、4,841名の児童・学生たちにこれら学習の機会を提供しました。

また、カシオグループの中でも最先端の環境配慮型事業所である八王子技術センターでの受け入れ授業は、より環境面に配慮した形で展開しています。八王子技術センターの施設見学を通じて、企業における省エネ活動や、ゴミの分別などの身近な環境活動に触れたり、環境に配慮した商品技術として電卓の分解、組み立てを体験することにより、地球環境保護への意識と気づきを持っていただくことを目的としています。

これら授業の後、子供たち自らが、命、平和、人権、貧困、環境等について、校内で研究を行う学校も複数でできました。一例として、出前授業を通じて関わった神奈川県横浜市の永田台小学校では、国内最大級の環境展示会「エコ・プロダクツ」への出展を決め、2011年度は国内の小学校では、唯一の出展を果たしました。また、文部科学省の主催する「ユネスコスクール」への参加も表明し、現在、中心校のひとつとして活動を進めています。

今後ともカシオは、文部科学省が推奨するESD活動を真摯に受け止め、教育現場とのコラボレーションで拡大展開をしていきます。



永田台小学校で実施した出前授業を韓国の教育委員会、教員および政府機関の代表30人が見学しました。



第3回ユネスコスクール全国大会にて講演を行い、カシオで行っている出前授業が子どもたちに与えている影響について話しました。

パートナーの声

NPO法人日本持続発展教育推進フォーラムは、学校現場における「ESDの正しい理解と実践の展開」を実現するべく、全国のユネスコスクールや教育関係者が一同に会して学びあう場、「ユネスコスクール全国大会／持続発展教育（ESD）研究大会」を2009年より文部科学省とともに開催してきました。

持続可能な社会を担う次世代の人材を育成する企業として、カシオ計算機様には当初よりご協力をいただき、毎年、参加者に向けて「命の授業」の取り組みについてお話しいただいております。カシオ計算機のご担当者若尾さんならではの、「本気で語る」そして「真実を伝える」という姿勢のこの活動は多くの先生方の心に響き、本大会をきっかけに授業が実現したケースもあります。私どもも、この活動の広がりの一助となっていることをたいへんうれしく思っています。

「持続発展教育」という言葉が広く浸透し始めている一方で、ESDの視点や考え方をどのように授業に取り入れたらよいか分からない、という先生方の声も多く聞かれます。企業が自らの理念や最先端の技術を活かした学校教育プログラムを構築することは、より具体的で実践的なESDを授業の中で展開する手助けとなるでしょう。今後も当NPOが橋渡し役となって産・官・学を連動させ、社会全体で子供を育てる活動をご一緒に続けていけたらと思います。

日本持続発展教育推進フォーラム
事務局長 齊藤英行様



パートナーの声

「命の大切さ」を児童に指導している千葉県市川市内の小学校では、カシオ計算機の若尾久氏を講師にお招きし「命の授業」を行っていただきました。それに参加し感銘を受けた当協会は、「命の授業」をもっと多くの青年に聴いてもらう機会をと、当協会が2011年8月に開催したユネスコ「平和の鐘を鳴らそう」の場において、授業を行っていただきました。本イベントは、国連の「平和の文化国際年」の2000年から毎年8月15日終戦記念日に開催され、青年が100名近く参加し平和を考える機会となっています。2011年は地域ユネスコ活動助成事業とし、青年に命の大切さを再確認させ、命を守るためには平和であること、平和であるには自主的に何ができるかを考えるという良い機会をいただきました。青年たちは「命の授業」を聴いて改めて命の重み、大切さを考える機会となったようです。



市川市ユネスコ協会 青年部担当 豊田元子様

カシオ上海の教育活動

カシオ教育奨励基金

カシオ上海は、北京大学、上海外国語大学、復旦大学、華東政法大學、北京外国語大学、天津外国語大学、華東師範大学に「カシオ教育奨励基金」を設立し、優秀な学生および優れた研究成果を上げた教員などに、奨励金を授与しています。

同奨励基金設立は、人材育成の場として重要な役割をもつこれら大学の発展を、長期的視野で支援することを目的としています。

今後も、語学、国際金融貿易、国際工商管理、マスコミ、法学、国際教育など多岐に渡る学問を支援し、学術研究の発展と振興に寄与していきます。



2011年度表彰式（上海外国語大学）

中国で日本学研究修士論文コンテストに協賛

カシオ上海は、2008年度より、中国教育部大学外国語専門教学指導委員会日本語分会、中国日本語教学研究会、および北京日本学研究センターが共同主催する、中国で唯一の日本学研究修士論文コンテストに協賛しています。

同コンテストは、中国の各大学間の交流を促進し、中国における日本学研究を深め、さらなる優秀な日本学研究の人材を育成することを目的としています。電子辞書メーカーであるカシオグループは、これを積極的に支援すべく、同コンテストの名称を「カシオ杯」として開催しています。



コンテスト授賞式

これら中国における日本語教育への長年にわたる一貫した貢献が認められ、2011年には、カシオの電子辞書が、中国日本語教育学会（中国語名「中国語教学研究会」）より、「指定電子辞典」の認証を受けました。同学会が日本語の電子辞書に認証を与えるのはこれが初めてで、唯一の認証ブランドとなります。



「指定電子辞典」の認証 署名式

学術研究

「カシオ科学振興財団」への支援

カシオは「カシオ科学振興財団」への支援活動を通じて、科学技術の発展に貢献しています。

財団について

カシオ科学振興財団は1982年に、故・榎尾茂前会長と榎尾4兄弟によって設立されました。

我が国が技術先進国として世界に貢献するという使命を果たすには、高度な研究開発がさまざまな分野で進められるべきであるとの理念のもと、特に限られた研究費で困難な研究を続けている若手研究者による萌芽的な段階にある、先駆的かつ独創的研究の助成を主眼として、研究助成活動を展開しています。助成対象分野も電子工学・機械工学から健康関連・省エネ関連の自然科学、また人材育成・人間行動の人文科学まで幅広い分野に対応しています。

29年間の研究助成の累計は13億8,100万円（1,091件）に達しました。



第29回（2011年度）贈呈式

2011年度の助成内容

2011年度は、5分野21分類の基本テーマに加え、近年の社会情勢から見て重要と思われる3つの特別テーマ（「小型化・低消費電力化」、「健康・維持増進のための電子装置」、「IT社会における人間の知的進歩」）を設定しました。

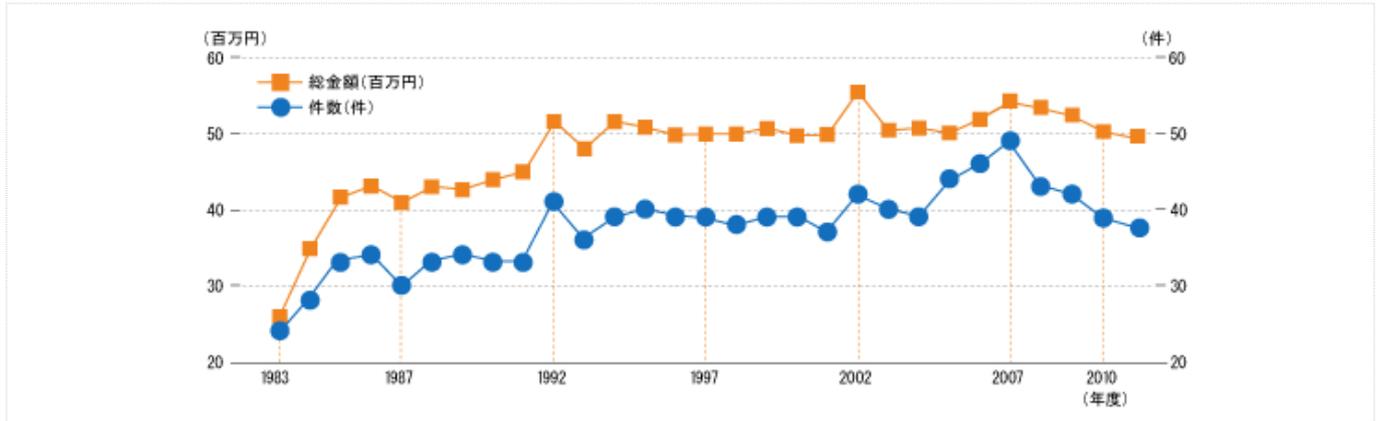
163大学に研究テーマの推薦を依頼した結果、88大学から265件という過去最多の応募が寄せられましたが、特に健康および環境を目的とした研究テーマが多数を占め、現代の科学技術のニーズが明確に浮かび上がりました。厳正な選考審査の結果、

A系（電子工学・機械工学）	24件	2,900万円
B系（医学・生理学）	8件	1,200万円
C系（人文科学）	6件	800万円

合計38件 4,900万円の助成を実施しました。

助成研究者は30～40代が大半であり、12月2日に行われた贈呈式には次世代を担う若き研究者が多数参列しました。

カシオ科学振興財団 研究助成金の推移



助成研究者の声

たいへん名誉ある研究助成をいただき感謝しております。研究室をスタートしたばかりで、学生と部品を集めてきては組み上げている状況において、太陽光を用いてCO₂を還元する無機半導体チップ、というチャレンジングな提案をご理解いただきました。この技術により革新的エネルギーデバイスを創出し、環境エネルギーへのエレクトロニクス応用の新分野を構築してまいります。その過程で、私が学生時代に「FX-7000G」から受けたインパクト、圧倒的な技術の重要性を学生に教えようと決意しております。今後も皆様のご指導ご鞭撻のほどお願いします。



東京工業大学大学院 理工学研究科 電子物理工学専攻 教授 波多野 睦子

環境保全

「イルカ・クジラ・エコリサーチ・ネットワーク」支援

カシオは、1994年に日本で開催された「第4回国際イルカ・クジラ会議」より、「G-SHOCK」と「Baby-G」の協賛モデルを販売し、売上金の一部を「アイサーチ・ジャパン（国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター※1）」に寄付することで、世界各地のイルカ・クジラの生態研究や自然保護教育活動を支援してきました。今回で17回目となる2011年度は、2つのNewモデルをリリースし、その売上の一部を同団体に寄付しました。

※1アイサーチ・ジャパン（国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター）
1991年に設立され、イルカ・クジラと地域の自然を大切にするため、「知る」「会いに行く」「大切に作る」という3つのステップでイルカ・クジラと自然の素晴らしさを伝える活動に取り組んでいる非営利団体です。



「国際イルカ・クジラ・エコリサーチネットワーク」モデル

植樹活動の実施

カシオ電子シンセンでは、地球環境や地域社会との共存共栄を目指し、8年前から植樹活動に参加しています。

2012年4月には、従業員26名が、シンセン市城市管理局およびシンセン市緑色基金会共同主催する2011年度植樹活動に参加し、植樹を実施。地域の方々とさらに良い関係を築くとともに、従業員同士の団結力を高めることができました。

今後もこのような活動に積極的に参加していきます。



植樹風景

地域社会活動

「カシオ技術クラス」設置と実習生の受け入れ

カシオの電子辞書・電子楽器・時計の製造を行うカシオ中山では、中国内陸部の発展途上地域で技術・技能者を育成すること、並びに、希望者には当社に入社して活躍してもらうことを目的として、2009年より湖南省の工業系専門学校と提携合意し、同学校内に「カシオ技術クラス」を設置して指導を行っています。さらに、同様の産学協力体制を中国内陸部で拡大するとの方針のもと、2011年には広西省の市立専門学校とも提携しました。

「カシオ技術クラス」では、工業専門教育に加え、組立実習用の機材を提供してカシオ製品を組み立てる技能教育や、当社の業務規程を活用した規範教育を行っています。また、希望者に対して3カ月の工場実習を行っており、年間延べ800名程度の実習生を受け入れています。

2011年6月には「カシオ技術クラス」から20名を超える卒業生が、当社の社員として入社しました。それぞれ品質管理や製品組立などいろいろな業務を担当し、既に班長候補に挙げられるほどの優秀社員も出てきています。今後、「カシオ技術クラス」を活用した人材育成をさらに発展させたいと考えています。



毎年参加する実習生は技能レベルが上達しています



広西省賀州市の専門学校で、「カシオクラス開設祝賀会」が開催されました

「提携学校の先生の声」

カシオ中山での実習は、実際に設備操作を経験することで、学んだ理論知識をさらに確実な能力に高めることができ、社会人としての意識習得にもつながっています。

この点で、学校も学生達も満足していますし、また、学費などの経済的な負担を減らすことができるため、カシオ中山にはたいへん感謝しています。

今後ますます協力関係を深めて、継続的に多くの卒業生を雇用していただき、能力の高い人材を育成してもらいたいと思っています。

果樹王国ひがしね さくらんぼマラソンに協賛

山形カシオは、「企業活動だけでなく、地元・東根市への地域貢献を通じて地域により愛される企業になろう!」と考え、「果樹王国ひがしね さくらんぼマラソン大会」に、2004年より協賛しています。

10回目となる2011年の大会では、協賛企業として賞品提供、販売ブースの出店を行い、また、従業員約80名が、ランナー、応援団、沿道整理ボランティアとして参加しました。

地域の方々と協力関係や信頼関係をより深く形成していくため、今後もこうした地域貢献活動を積極的に行っていきます。



ランナーに声援を送る応援団

文化・芸術

カシオでは、交響楽団や文化施設への協賛等により、人々へ喜びと感動を提供するとともに、文化・芸術の継承を図っていきます。

- ・NHK交響楽団への協賛
- ・東京フィルハーモニー交響楽団への協賛
- ・バリ日本文化会館への協賛、など

その他

福祉作業所への商品解体・分別業務委託

カシオビジネスサービスは、「人と環境にやさしい企業」を目指し、製品廃棄におけるリサイクル活動を推進していく中で、2000年より継続的に社会福祉法人が運営する福祉作業所に、カシオ製品の解体や分別作業を委託しています。

知的障害や身体障害のある方が通う福祉作業所では、袋や化粧箱づくり、チラシ折等の軽作業が多く、多種多様な商品を扱う当社の委託業務は、作業者的の方々の充実感が高いと評価をいただいています。

カシオビジネスサービスでは、CSR活動の一環として今後も作業者的の方々の自立支援のお役に立てられるよう業務委託を継続していきます。



分別されたパーツ類

ボランティア活動

「エコキャップ」運動への参加

カシオテクノとカシオ情報機器が中心となって、2008年度よりペットボトルのキャップの回収・寄付により途上国の子供のポリオワクチン接種に役立てる「エコキャップ」運動に参加しています。

この運動は、NPO法人の「エコキャップ推進協会」が実施しているものです。回収したキャップ 800個が20円となり、これが1人分のポリオワクチンの費用となります。

主要拠点に回収ボックスを設置、従業員全員に参加を促しています。

今後も従業員が一丸となって取り組むことで、確実に成果を上げていきます。

清掃ボランティア活動の実施

カシオグループでは、全国の事業所や工場において、社員ボランティアにより、会社周辺の清掃活動を定期的に行っています。今後も定期的に清掃ボランティアを実施し、地域社会に貢献できるよう活動を続けていきます。



羽村技術センター



カシオ電子工業



カシオ電子シンセン

災害被災者への支援

カシオでは自然災害などにより甚大な被災が発生した場合、被災者の方々の救済と被災地の1日も早い復興に支援を行っています。

●タイの洪水被害に対する支援

2011年7月下旬からの豪雨によりタイで発生した洪水による被災者に対し、以下の支援を行いました。

	寄付先	金額
1	タイ赤十字社	331万円 ※国内外のカシオグループ従業員による募金額 161万円を含む
2	タイ首相府被災者救済基金	530万円
3	ジャパン・プラットフォーム	300万円

※東日本大震災への支援については[こちら](#)をご参照下さい。